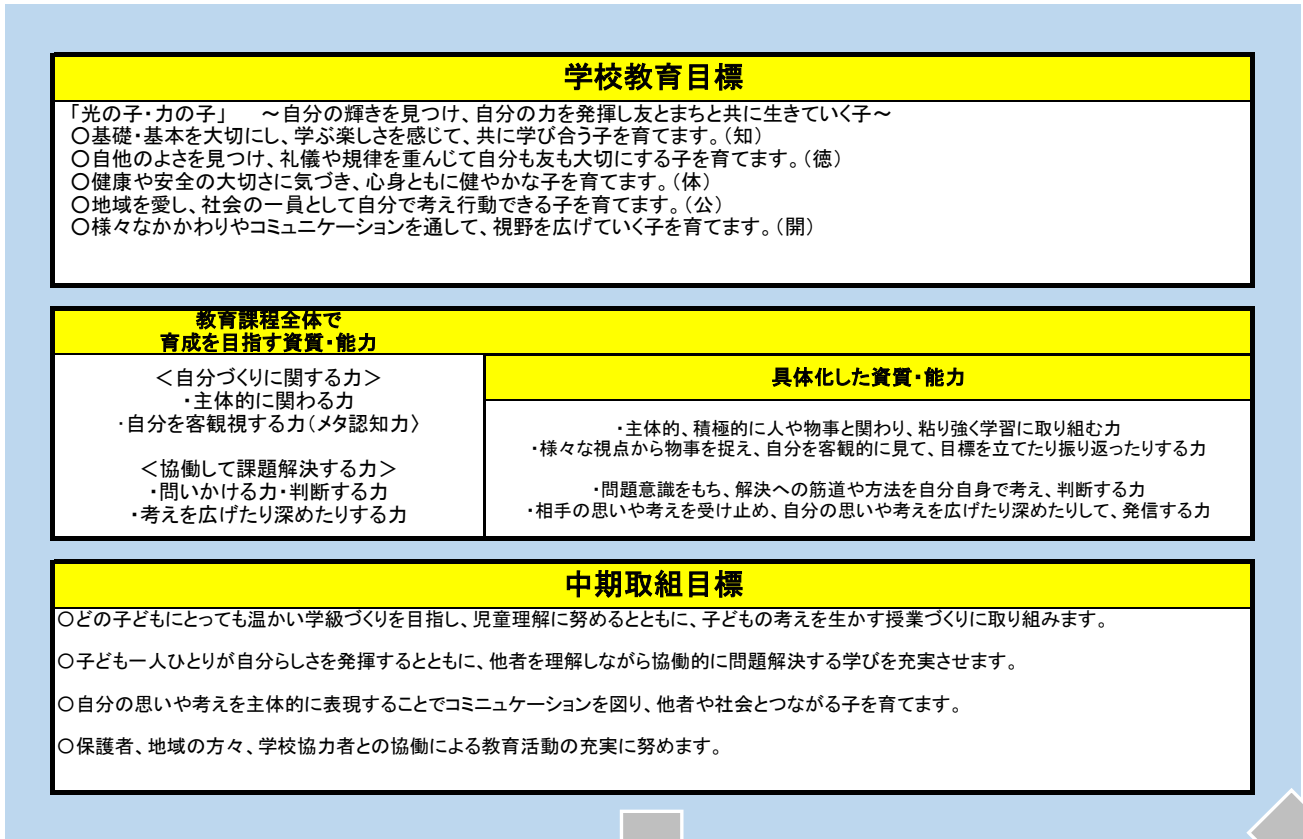




学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①「主体的・対話的で深い学び」を目指し、問題解決学習のための単元構成や学習方法などを工夫する。 ②今年度も「情報教育」の分野で授業研究を行う。「主体的に学び、自分の考えをもち、伝え合う子どもを目指して」情報活用能力を高め、協働して課題解決する力を育てる授業づくりを目指す。
担当	重点研推進委員会

学力向上に関わる本校の状況

(1)学力に関わる児童生徒の実態
学力については、全体的に横浜市平均に近い数値を示している。重点研究として情報教育をテーマに、様々な教科の授業力向上に取り組んでいる成果が出ていると考えられる。学力に比べ、学習意識調査・生活意識調査の数値がやや低い傾向がみられる。協働的に学ぶ意欲や、主体的に学校生活を送ろうとする意識を高めていく必要がある。

項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年
学力	50	48	45	42	40	38
生活意識	45	42	40	38	35	32
学習意識	40	38	35	32	30	28

(2)これまでの学校の取組状況
昨年度、「主体的に学び、自分の考えをもち、伝え合う子どもを目指して」～ICT機器またはタブレット端末を効果的に活用することを通して、情報活用能力と自分の思いや考えを豊かに表現する力の育成を目指した授業づくり～を研究主題として、教科・領域を定めずに、情報活用能力の育成について授業研究に取り組んできた。また、朝の時間に読書習慣をつけるために「読書タイム」を、基礎・基本の確実な定着を目指して「スキルタイム」を実施してきた。

今年度の目標

「主体的に学び、自分の考えをもち、伝え合う子どもを目指して」
～情報活用能力と表現力を高め、協働して課題解決する力を育てる授業づくり～

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

《重点研究の取組》
・ICT機器を効果的に活用し情報活用能力を高め、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。
・子どもたちが互いに学び合う学習集団づくりを目指す。
・討論や話し合いなどの対話的な学び、問題解決的な学習を重視する。
・教科横断型のカリキュラムを作成し、学びを創る態度の育成をする。
・子ども自身で学習の調整をし、主体的に学んでいく力の育成をする。
・子どもが主体的に学ぶ姿、自分の言葉で、表現できる姿を目指して、研究を通して、校内で共通理解を図り、学校として育てる子ども像を明確にする。
・指導の手立てなどを職員で共有し、互いの授業力向上を目指す。
《学びの環境委員会の取組》
・本を読む習慣を付けることで様々な文章に親しみ、豊かな心を育むため、火曜・木曜の朝の時間に「読書タイム」を設定する。
・基礎・基本を定着させていくため、金曜の朝に「スキルタイム」を設定する。AIDリルや教科書の練習問題サイトを活用する。

下半期

《重点研究の取組》
・ICT機器を効果的に活用し、引き続き主体的・対話的で深い学びの実現を図る。
・前期の集団づくりを基盤に、協働して課題解決する力を育む学習を目指す。
・討論や話し合いなどの対話的な学びを継続し、質の高まりを目指す。
・問題解決的な学習を引き続き重視し、質の高まりを目指す。
・教科横断型の指導を目指し、引き続き学びを創る態度の育成をする。
・子どもがより見通しをもち、学習の調整をし、主体的に学んでいく力の育成をする。
・子どもが主体的に学ぶ姿、自分の言葉で、表現できる姿を目指して、前期の研究の成果・課題を活かし、校内で共通理解を進め、学校として育てる子ども像を明確にする。
・指導の手立てなどを職員で共有し、互いの授業力のさらなる向上を目指す。
《学びの環境委員会の取組》
・引き続き火曜・木曜の朝の時間に「読書タイム」を設定し、本を読む習慣を身に付ける。今までの読書の成果を振り返り、自分自身の成長につなげられるように支援する。
・基礎・基本のさらなる定着を目指すため、引き続き金曜の朝に「スキルタイム」を設定する。AIDリルや教科書の練習問題サイトを活用する。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育 (豊かな心)	①道徳や人権学習の取組などを中心に、日頃から児童の人権を育む教育に取り組む。児童一人ひとりが自他の違いやよさを認め合う雰囲気を目指す。 ②たてわり活動「みなみタイム」を意図的・計画的に取り入れ、それぞれの学年の児童がめあてを意識し、主体的に関わる場面を設定していく。ともによりよい生活を作ろうと協力し合う心を育てる。
担当	B部会(人権福祉)

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる児童生徒の実態
横浜市学力・学習状況調査の生活意識調査の回答からは、いじめに対して「どんな理由があってもいけないもの」だという意識が根付いていることが読み取れる。また、学校は安心できる場所だという思いをもっている児童も多い傾向にあり、引き続き学校を安心できる場所にしていくための取組が必要である。

項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年
道徳	45	42	40	38	35	32
人権	40	38	35	32	30	28
自己肯定感	35	32	30	28	25	22
他者理解	30	28	25	22	20	18
自己表現	25	22	20	18	15	12
自己管理	20	18	15	12	10	8

(2)こ
年間を通してたてわり活動「みなみタイム」の時間を設定し、異学年交流を進めてきた。年度の前半は6年生がリーダーを担って活動を引き継いだ。12月からは6年生から5年生へリーダーの役割を引き継ぐとともに、各学年がめあてを持ち、役割を担って活動に取り組んできた。また、学習場面や委員会活動の中で、他学年と関わり、交流をすることができるような取組を行ってきた。
12月には人権週間を設定し、講話による啓発や横浜プログラムの活用などをしてきた。
道徳では、道徳的価値に照らし合わせて振り返りを行い、自分自身を見つめ直すことができるような学習を行うよう努めてきた。

今年度の目標

他者との主体的な関わりを通して、
互いの良さを知り、認め合い、学び合うことができる子の育成。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

《人権での取組》
・児童のいじめに対する意識が高まるように、朝会等の場でいじめ防止に向けた話を専任を中心に行う。
・YPアセスメントシートや横浜プログラムを実施し、自己肯定感の高まりや他者理解の大切さに気付くことができるようにする。
・おはなしタイムを実施し、児童の頑張りや良さを伝えたり、困り感や悩みを把握したりして、児童理解に努める。
《道徳での取組》
・道徳では、今の自分を振り返ることや、自分の考えの広がりや深まりを自分自身で見つめ直すことができるような学習を積み重ねていく。
《たてわり活動での取組》
・活動の前をめあてを共有し、異学年交流が意図的かつ充実した活動になるように心がける。
・高学年児童がたてわり活動を通してリーダーシップを発揮できるように、計画、運営していく。頑張り認め、自己有用感や自己肯定感の向上につなげる。
・それぞれの学年に応じためあてを意識し、一人一人が主体的に活動に取り組むことができるようにする。

下半期

《人権での取組》
・児童のいじめに対する意識が高まるように、朝会等の場でいじめ防止に向けた話を専任を中心に行う。
・YPアセスメントシートや横浜プログラムを実施し、自己肯定感の高まりや他者理解の大切さに気付くことができるようにする。
・人権週間を設定し、人権意識がより高まるような講話や横浜プログラムの実施を行う。
・おはなしタイムを実施し、児童の頑張りや良さを伝えたり、困り感や悩みを把握したりして、児童理解に努める。
《道徳での取組》
・道徳では、今の自分を振り返ることや、自分の考えの広がりや深まりを自分自身で見つめ直すことができるような学習を積み重ねていく。
《たてわり活動での取組》
・活動の前をめあてを共有し、異学年交流が意図的かつ充実した活動になるように心がける。
・高学年児童がたてわり活動を通してリーダーシップを発揮できるように、計画、運営していく。頑張り認め、自己有用感や自己肯定感の向上につなげる。
・それぞれの学年に応じためあてを意識し、一人一人が主体的に活動に取り組むことができるようにする。
・高学年の中で連携を図り、6年生から5年生へリーダーの役割を引き継げるようにする。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①運動委員会を中心に、児童が主体的に取り組む内容を決め、体力向上のための活動や運動に興味をもつ取り組みを行う。 ②児童の学校保健委員会では「けがの予防」をテーマに話し合いを行う。丁寧に安全指導を継続し、児童が安全に気を付けて健康的に日常生活を送れるようにする。
担当	体育部・体力推進

健やかな体に関わる本校の状況

(1)体力に関わる児童生徒の実態
横浜市学力・学習状況調査の体力・運動能力の調査からは、学年が上がるほど、体力・運動能力が横浜市平均を上回る数値が出ている。昨年度と比較すると、全体的に運動意識が高まっている。

項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年
体力	45	42	40	38	35	32
運動能力	40	38	35	32	30	28
健康意識	35	32	30	28	25	22
生活習慣	30	28	25	22	20	18
自己管理	25	22	20	18	15	12
自己表現	20	18	15	12	10	8

(2)これまでの学校の取組状況
これまで、縄跳び大会やランニング大会、運動委員会による運動集会などを行い、子どもたちが運動に親しめるようにしてきた。昨年度は、運動委員会が中心となり、キャッチボールに触れる機会をつくり、多くの子どもたちが投げる運動に親しんだ。今年度も運動委員会を中心に運動に親しめる企画をしようと考えている。
また、学校保健委員会の取組内容を児童会や保健委員会が主体となって計画・準備し、児童が主体的に年間を通じて継続的に取り組めるように活動してきた。

今年度の目標

児童が自らの体力や健康に関心をもち、日常的に運動に親しむことによって、
生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を身に付け、
体力の向上と心身の健康の保持増進を図る。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

《体育科での取組》
・体育科では、児童が自分の学習状況を的確に把握し、自分に合っためあてを立て、その解決のための方法を選択しながら課題解決できるようにする。また、教師も児童の状況を見取り、一人ひとりに合った学習ができるように支援する。その中の「学び合い」を通して、他者から認められる喜びを味わったり、他者のよさに気付いたりできるようにする。
《他教科での取組》
・家庭科では、「食育」の充実を図り、栄養・健康と生命のつながりについて考えることができるようにする。
・国語や社会、理科(生活)では、身の回りの動植物の生態について学習し、自分の生命だけでなく、他者の生命を大切にしようとする態度を養う。
《学校行事での取組》
・運動会では、児童の発達段階に合わせた表現運動、団体競技を選択し、児童がなぜその演技・競技を行うのかを考えて運動に取り組めるようにする。
・運動委員会が中心となり、楽しく運動ができるような集会を実施し、運動に親しめるようにする。

下半期

《体育科での取組》
・体育科では、児童が自分の学習状況を的確に把握し、自分に合っためあてを立て、その解決のための方法を選択しながら課題解決できるようにする。また、教師も児童の状況を見取り、一人ひとりに合った学習ができるように支援する。その中の「学び合い」を通して、他者から認められる喜びを味わったり、他者のよさに気付いたりできるようにする。
《他教科での取組》
・家庭科では、「食育」の充実を図り、栄養・健康と生命のつながりについて考えることができるようにする。
・国語や社会、理科(生活)では、身の回りの動植物の生態について学習し、自分の生命だけでなく、他者の生命を大切にしようとする態度を養う。
《学校行事での取組》
・運動会では、児童の発達段階に合わせた表現運動、団体競技を選択し、児童がなぜその演技・競技を行うのかを考えて運動に取り組めるようにする。
・運動委員会が中心となり、楽しく運動ができるような集会を実施し、運動に親しめるようにする。